

080409その他の商業－その他における死亡災害事例（1999-2022年）

年	月	発 生 時	死亡災害事例	起因物 (小)	事 故 の 型	労働 者規 模
2022	2	14 ～ 16	被災者が立木をチェーンソーで伐倒作業中、伐倒した立木が被災者に激突し重症頭部外傷により死亡したものの。	712	6	10～ 29
2022	4	12 ～ 14	機械式立体駐車場の1階部分に被災者が立ち入っていたところ、他の労働者がそれを確認することなく操作盤を操作したため、車両を鉛直搬送するためのリフトが地面の位置から上昇した。被災者は足元から上昇してきたリフトに持ち上げられて上昇し、その後リフトから転落し、地面に激突した。救急搬送先で外傷性ショックによる死亡が確認された。	214	1	1～9
2022	4	10 ～ 12	有料駐車場において、軽自動車が誤って出口から進入したため、スロープをバックで下る誘導を軽自動車の後方で行っていた被災者に、誘導していた軽自動車が急加速して激突した。	231	18	1～9
2022	5	16 ～ 18	被災者がフォークリフト（最大荷重：3000キログラム）を運転して敷地内の資材置き場から荷（ドラグ・ショベルのアタッチメントであるブレーカー、重量：1650キログラム）を移動させ、下り坂部分（勾配：約10度）を後退で下っていたところ、坂道の端部からフォークリフトが脱輪したことで横転し、運転席から投げ出された被災者がフォークリフトのマスト部と約70センチメートル下の地面との間に挟まれた。	222	2	1～9
2022	7	10 ～	災害発生状況事業場は工事機材リース業の事業場Aの構内2次下請で、事業場Aで朝礼後は1km弱離れた出庫用置場（建物なし）で2名が作業。塗装場用雨除けを構内に仮設のため、余剰在庫の鋼製水槽タンク（高さ・	419	5	1～9

		12	幅約2×長さ約9m、約7t) 2段積を間隔5mで並べた上に屋根予定鉄板(2×6m、3t)を移動式クレーンで乗せた時、上段が倒れ落ち、タンク内壁と鉄板の間にはさまれた。			
2022	8	12 ~ 14	被災者は、アパートの清掃や管理状況を確認しに行くため、軽ワゴン車を運転していた。被災者は、片側1車線の国道1C付近でセンターラインを超えて、トラックと正面衝突した。なお、衝突時に軽ワゴン車のキャリアに積んであった脚立がトラックのフロントガラスを突き破り、ガラスの破片により負傷し、トラックドライバーは休業1日となった。	231	17	1~9
2022	11	10 ~ 12	被災者は車両積載形トラッククレーンのワイヤーロープを滑車に接続し、牽引する形でフォークリフトを当該トラッククレーンの荷台に積み込む作業を行っていたところ、荷台後部に取り付けられていた道板が外れた結果、フォークリフトの右後輪が脱輪し、横転したフォークリフトの下敷きになり、死亡したものの。	222	6	1~9
2022	12	14 ~ 16	被災者は、有線放送の不具合の現地調査のため、自動車販売店に出張し、販売店併設の工場の外部はしごを上り、屋根上に設置されたアンテナに向けて工場の屋根上を歩行していたところ、屋根上の天窓(ガラス)を踏み抜き、6.1m下のコンクリート製の床に墜落したものの。災害発生当時、屋根上には40cm程の積雪があり、また、被災者は保護帽及び墜落制止用器具を使用していなかった。	415	1	1~9
2022	12	12 ~ 14	管理人兼清掃員として勤務している被災者が頭部を負傷し、死亡した状態で発見された。災害発生前にはマンションの擁壁上(高さ1.5m)の斜面で剪定作業を行っていたと推定される。	418	1	100 ~ 299
2022	12	10 ~ 12	被災者は、伸縮式の移動はしごを用いて高さ約6メートルの箇所にあるガラス窓の清掃を行っていたところ、ガラス窓のある建屋から57センチメートルはなれたフェンスの外の集合住宅敷地内に墜落した。作業場所にははしごの下方を支えるための労働者が配置されていたが、被災時にははしごから離れていた。後日、被災者の死亡が確認された。	371	1	50~ 99
			段積みされたパレットをフォークリフトで運搬し、バックで旋回しながら			

2021	1	14 ～ 16	検査台に載せようとしていたところ、運搬していたパレットが崩れ、検査台でパレットの点検作業をしていた被災者の頭上に落下し負傷したもの。なお、被災者は、災害発生後に呼吸不全で死亡した。また、災害発生時に、構内下請けの労働者2名も、同様にパレットがぶつかり負傷した。	222	4	10～ 29
2021	2	18 ～ 20	被災者は、社用車を運転していた。被災者は転回するため社用車を操作中、後ろを走行していた車が社用車後部に衝突。被災者は首を強く打ち、病院に搬送されたが、事故発生数時間後に死亡が確認された。	231	17	50～ 99
2021	5	8 ～ 10	災害発生当日、被災者は部下の運転する移動式クレーン（65tラフター8クレーン）の前輪の異常について点検をするため、当該移動式クレーンのアウトリガーを張り出し車体を浮かせた状態で、左前輪と車体の間に立ち入り部下にハンドルを戻すよう指示し、前輪が動いた時に車体の間（20cm）に挟まり胸部を強く圧迫され死亡した。	212	7	50～ 99
2021	5	14 ～ 16	3階建てマンションの雨漏り調査のため、当該マンション2階の個人宅の出窓から身を乗り出して外壁の雨漏り部の写真を撮っていたところ、墜落した（墜落高さ：約5m）。頭部出血により死亡。	418	1	1～9
2021	10	10 ～ 12	8階建マンションにおいて、同マンションの管理人（被災者の妻）や住民等が何か墜落した音を聞きつけ、同管理人が音のした場所を確認したところ、同マンションの地上西側通路で血を流して倒れている被災者（同マンションの管理人）を発見したもの。墜落地点の地上からマンション屋上までの高さは21.7m、屋上外周は高さ0.4mのパラペットで囲われている。	415	1	300 ～ 499
2020	1	16 ～ 18	浮きクレーンのクレーン部解体作業中、クレーンのフレームに吊り下げ固定されているカウンターウェイト（28t）の固定用ボルトを溶断して外したところ、当該カウンターウェイトが落下し被災者2名に接触、うち1名が死亡したもの。	212	4	10～ 29
2020	1	16 ～ 18	帰宅するため、就業場所から自家用車の駐車場へ事業場が所有する自動車移動中、信号機のない交差点で一旦停止後、発進した際に西進して来た自動車と衝突、病院へ搬送後、死亡した。	231	17	30～ 49

2020	3	0 ～ 2	新型コロナウイルス感染症により死亡したもの。	911	90	～ 299
2020	4	14 ～ 16	管理人である被災者は、入居者に必要書類を届けるため、入居者宅を訪ね、玄関チャイムを鳴らして待っていた。入居者が外開きの玄関扉を開けた際に、それを避けようとした被災者が1階と2階の間の踊り場まで転落し、翌日脳挫傷により死亡したもの。	413	1	30～ 49
2020	8	12 ～ 14	飼料稲の収穫を行う田んぼにおいて、被災者と同僚が飼料用稲の収穫及びラッピング作業を行っていた。被災者は専用の農業機械で稲の刈取及び1次ラッピングを、同僚が別の農業機械で2次ラッピングを行っていた。作業終了時刻になったため、同僚が作業を終了し、被災者が扱っていた農業機械を確認したところ、当該機械のチャンバー部に挟まれている被災者を発見した。	169	7	1～9
2019	1	10 ～ 12	被災者が脚立を使用してマンションの7階廊下で清掃作業を行っていたところ、約18m下の地上へ墜落したもの。	371	1	50～ 99
2019	1	12 ～ 14	営業所において、2階にある店舗から駐車場の車に点検表を持っていくために階段（幅約2m、踏面29.5cm、蹴上16.5cm、段数23段）を降りようとして上から1段目に左足、上から2段目に右足がある状態から左足を下の段へ下ろそうとした際、階段の滑り止めにつまづいてバランスを崩し、左肩を下にして床まで転落し、腰を強打した。被災者は、受傷後1週間ほどで肺炎を発症し死亡した。	413	1	1～9
2019	1	20 ～ 22	会議に出席後、駐車場で脳出血を発症し、救急搬送されるも死亡したもの。	921	90	1～9
2019	3	10 ～	マンション2階エレベーターホール天井のLED電球交換作業時に脚立から転落、頭部打撲による両側脳挫傷により5日後に死亡したもの。ヘル	371	1	1～9

		12	メットは着用していなかった（天井は高さ2.64m、脚立は高さ1.17m）。			
2019	5	10 ～ 12	シャーリングマシンの付属設備である昇降式コンベアのレベル調整を行うため、エアシリンダにエアを充填しコンベアを上昇させた状態でコンベア内部にあるエアシリンダ近接のスイッチ調整を行っていたところ、エアが抜け下降したコンベアとフレームに頭が挟まれたもの。	169	7	50～ 99
2019	8	18 ～ 20	業務を終え、トラックをコインパーキングに駐車し、冷凍庫内にドライアイスが残っている状態で当該トラックから離れた。その後、被災者が当該トラックに戻り、当該トラックのエンジンを始動し、当該トラックの荷台冷凍庫に入った。その後、倒れている被災者が発見されたが、窒息による死亡が確認されたもの。	714	12	30～ 49
2019	11	10 ～ 12	被災者は、高さ2.5メートルの金属製の棚に扇風機を置くために、高さ170センチメートルのアルミ製の脚立をはしご状にして立てかけて昇りはじめたところ、脚立がすべって倒れ、約70センチメートル下の床に墜落した。救急隊が到着して容体を確認したところ、同労働者は多発性外傷で意識不明の重体であった。午後、搬送先の病院で死亡した。	371	1	10～ 29
2019	12	22 ～ 24	下水道工事に付随し片側3車線中2車線を道路占有しバリケード内で交通誘導中、突っ込んできた軽自動車にはねられた。	231	17	10～ 29
2018	3	16 ～ 17	三輪バイク（原付）で商品を配達に行く途中、下り坂の左カーブの場所で左側ガードレールに激突し死亡した。	231	17	10～ 29
2018	3	14 ～ 15	同営業所敷地内に駐車中の4tトラックが無人のまま逸走、後進し、同車両近くに居た被災者が同トラックの運転席と隣の車両のあいだの間に挟まれ死亡した。単独作業で詳細不明であるが、逸走したトラックは、バッテリーが上がっていたため、被災者はその復旧のため、隣のトラックのバッテリーとブースターケーブルでつなぐための準備をしていたものと思われる。	221	7	1～9

2018	7	14 ～ 15	事業場の屋外に設置されたチラー設備（冷却水循環装置）の異常確認を行っていたところ、仰向けの姿勢で倒れているのを同僚の労働者に発見された。被災者は病院に搬送後、死亡が確認された。なお、災害発生時にはチラー設備の配電盤の覆いが外され、導線がショートしている状態が認められた。	391	13	10～ 29
2018	8	14 ～ 15	土砂災害で走行不能となった自動車を指定の場所へ搬送するため、レッカー車へ積み込む作業を2名で行っていた。自動車のタイヤには土砂が堆積していたため、被災者はスコップを用いて、取除き作業を開始した。作業開始から10分程度経過した頃、被災者は息切れが激しくなり、車内で休むため、車へ移動する途中で、倒れ意識を失った。病院へ搬送されたが、意識は戻らず死亡した。	911	90	1～9
2018	8	10 ～ 11	被災者は、配送作業員として所属事業場所有のリース機械である高所作業車をつり上げ荷重2.6tの小型移動式クレーンの荷台に載せて、災害発生場所の建設現場に運搬した後、当該現場横の駐車場において、小型移動式クレーンを用いて荷台に載せた高所作業車をつり上げ地上に下ろそうとしたところ、当該小型移動式クレーンが横転し、つり上げていた高所作業車の下敷きとなったものである。	212	6	1～9
2018	8	12 ～ 13	福祉施設において、施設内の庭に設置されているグリストラップ内のメンテナンス・清掃作業中、作業していた被災者がグリストラップ内（深さ：110センチメートル）に逆さまの状態で落ちているのを発見されたもの。その後、病院に搬送されたが、後日死亡したものである。	418	10	10～ 29
2018	9	10 ～ 11	被災労働者が、荷主の敷地内で、フォークリフトを運転する荷主の労働者と共に、フォークリフトを使用して貨物自動車の荷台に建築用鉄骨を積む作業を行っていた際に、荷台に載せようとした鉄骨と共に荷台から墜落し、落下した当該鉄骨の下敷きになり、頭蓋骨を骨折し死亡したもの。	222	4	10～ 29
2017	2	0 ～	被災者は帰宅後、自宅の台所で倒れ、病院に搬送されたものの、虚血性心疾患により、死亡が確認された。被災者は、建築士として売建住宅の設計を行っていたが、次第に業務過多となり、発症前1ヶ月における時間外労	921	90	10～ 29

		1	働は112時間に達していた。			
2017	3	12 ～	被災者は営業先に向かうため、乗用車を運転し県道を走行中、対向してきた大型トラックの荷台から落下した鉄板にボンネット付近を直撃された。	221	17	10～ 29
		13	乗用車はその弾みで近くの電柱に衝突し、炎上した。			
2017	3	10 ～	事業場倉庫の梁にロープを架けて縊死した。	921	90	10～ 29
		11				
2017	4	14 ～	道路を走行中の廃油運搬車が一般車両を回避するため減速した際、廃油運搬車の後方を走行していた積載形トラッククレーンが当該廃油運搬車に追	212	17	1～9
		15	突。トラッククレーンを運転していた被災者が死亡した。			
2017	5	10 ～	自社敷地内において16トン移動式クレーンを使用して1.6トンの敷鉄板の移動を行っていた。敷鉄板を片側が接地した状態で引き起こし、被災者が鉄板に付いた土を取り除こうと鉄板に接近した際、直接敷鉄板の穴の部分にかけていた玉掛け用フックが外れ鉄板が被災者側に倒れてきた。	372	7	50～ 99
		11				
2017	7	16 ～	被災者は、工事現場において、クレーン作業中に玉掛業務を行っていた際、吊り荷にはさまれ足を骨折したが、その後当該負傷を原因とする不安症の診断を受けた。後日自殺未遂を図りうつ病の診断を受け、その後も自殺未遂を繰り返し、自宅で自殺した。	921	90	10～ 29
		17				
2017	8	18 ～	被災者は、2トントラックの荷台上で、ロールボックスパレットを使用し	362	6	1～9
		19	て、シートカバーの積み込み作業を行っていたところ、シートカバーを積んでいたロールボックスパレットの下敷きとなり、死亡した。			
2017	8	20 ～	マンション管理業務を行う被災者が、マンションの雨水升（幅45cm、奥行45cm、深さ150cm）に墜落し死亡した。	414	1	300 ～ 499
		21				
		13	車両系建設機械の修理工場建屋内で、アタッチメントの溶接補修を行っていた被災者が、補修材料として使用する鉄板（1680×1530ミリ：約200Kg）を天井クレーン（2.8t）で移動させていた。近くに			10～

2016	2	～ 14	た作業者が鉄板が倒れた音を聞き駆けつけたところ被災者が仰向けの状態で鉄板の下敷きになっていた。すぐに助け出し救急搬送したが病院で死亡が確認された。	372	6	29
2016	3	～ 11	被災者は本件事業場の車両置場（完成品置場）において、高所作業車（作業床の高さ27メートル、積載荷重200キログラム）の点検のため、作業床に乗り、ブームを起伏（80度）してブームの伸縮状況を確認していたところ、ブームを最大限に伸ばした高さ27メートルから地上に墜落し、死亡した。	146	1	1～9
2016	4	～ 14	被災者は、足場のリース業務にかかる現地調査のため、社用車にて走行中、何らかの原因によりセンターラインをオーバーしてしまい、対向してきた大型トレーラーと衝突した。搬送先の病院で治療を行っていたが、9日後に死亡した。	231	17	1～9
2016	6	～ 11	地上から283cmの高さにあった、特殊寝台用のマットレスを取り出すため、オーダーピッキングトラックに搭乗して上昇した被災者が、バランスを崩し地面に落下した（フォークが停止していた高さは、地上から182cmであった）。	222	1	1～9
2016	10	～ 14	事業場から営業先に向かうため社用車を運転中、一時停止標識のある交差点において、右側から走行してきたダンプトラックと衝突した。	221	17	1～9
2016	11	～ 17	積載荷重4t不整地運搬車の点検作業において、ダンプアップした荷台の下に入り、油圧ホースの点検を行っていたところ、油圧ホースが接続部から抜けて不意に降下した荷台とクローラとの間に挟まれた。	227	7	1～9
2016	12	～ 19	被災者は、除排雪業者の雪捨て場において、ダンプトラックにて雪を運び込み排雪後、ダンプトラックから降車していたところ、雪ならしのため後進してきたトラクターショベル（除排雪業者）の右後方部に激突された。	141	6	1～9
		14	5階建てマンションの防水工事現場において、不動産管理を行っている同社の営業社員が現場の状況を確認中に4階屋上から3階屋上（高さ約3.			

2015	8	～	1メートル)に墜落し、死亡したものの。同社は、マンションの所有者から依頼を受け、U社に防水工事の施行一式を発注しており、被災者は出張中に被災したものの。警察署において、災害調査実施済。	418	1	1～9
2015	4	11 ～ 12	被災者がドラグショベルの下敷きになり倒れているのを通行人が発見。搬送先の病院で死亡が確認されたもの。リースしていた1トンドラグショベルを引き取るため建設現場に出張していた被災者が、当該ドラグショベルを1.5トントラックへ積み込む際ドラグショベルと転落し、運転していた被災者がその下敷きとなったものと思われる。災害調査については、警察署が実施済み。	142	1	1～9
2015	7	0 ～ 1	ダム付近に設置されている雨量計の月次点検作業のため、点検員2名で山を登っていたところ、被災者が体調不良を訴えたため、点検作業には参加せず木陰で休憩していた。もう一人の点検員が点検を終え、二人で下山していたところ、被災者が倒れ、苦しんでいたため救急要請をした。救急ヘリで病院に搬送されたが、死亡が確認された。死体検案書の死亡の原因欄、直接死因が「熱中症」と記載あり。	715	11	10～ 29
2015	2	8 ～ 9	敷地内で、橋形クレーンを用いレンタル品(敷き鉄板)をトラックに積み込む作業を行っていたところ、倒れ込んだため、事務所で休むよう促され、自力歩行で事務所へ向かったが、10メートル程進んだところで、突如、仰向けに倒れ、頭部を強打し、翌日、頭部外傷による急性硬膜下血腫で死亡した。なお、ヘルメットは非着用であった。	921	2	1～9
2015	8	17 ～ 18	リース用のドラグショベル(機体重量約2t)をトラックの荷台に載せようと既存の傾斜した専用の台を走行中にドラグショベルが転倒しかけたので飛び降りたが転倒したドラグショベルのクローラ部分と専用の台の隣りに置いてあるリース用の歩み板の間に挟まれ病院へ搬送されたが死亡した。	142	1	30～ 49
2015	12	～	レンタルから帰って来た鉄板を高圧洗浄機で洗浄する作業中、被災者が鉄板と地面との間に挟まれ死亡したものの。被災者はマグネットアタッチメントの付いたドラグショベルで、マグネットにより置かれていた鉄板を引	149	4	1～9

		12	き上げた後、洗浄しようと運転席から降りて立てていた鉄板のところへ行ったところ、鉄板が倒れたものと推定される。			
2015	11	13 ～ 14	マンション管理人である被災者が、当該マンションの外壁工事で使用するゴンドラの乗込み用仮設足場上に倒れているところを発見されたもの。7階共用廊下において、脚立に上り廊下の天井に設置されている照明の蛍光灯の交換作業中、廊下の手すりを越えて約17m下の足場に墜落したものと推測される。	371	1	30～ 49
2015	5	15 ～ 16	国土開発幹線自動車道上において、得意先回りのためライトバンを運転していた被災者が、中央分離帯を越えて対向車線を走行してきた大型トラックと正面衝突し、その後、炎上したライトバンの車内から被災者の遺体が見つかったもの。なお、現場付近は片側1車線の緩やかなカーブであった。	231	17	1～9
2015	1	9 ～ 10	マンションの管理人である被災者が、一人で脚立に乗って蛍光灯（2階廊下天井）を交換している途中に、管理人室に戻ってきた。被災者は、管理人室に戻って来た時に、頭の痛みは訴えたが、記憶に問題があり直前に何をしていたかわからない状態であった。そのうちに気分が更に悪くなり、救急車を呼んだが救急車が到着するまでの間に受け答えができなくなった。司法解剖の結果、死因は脳挫傷、硬膜下血腫、頭蓋骨骨折であった。	371	1	10～ 29
2015	11	18 ～ 19	三輪バイクでチラシ配布作業中、転倒し頭部を強打し負傷したと思われる。平成27年11月8日16時45分、頭部の急性硬膜下血腫にて死亡したもの。なお、被災者は、すでに倒れている状況で発見されている為、どのように転倒したかの詳細は不明。	231	17	1～9
2014	2	0 ～ 1	被災者は、本事業場の店長として単身赴任していたが、上司から達成困難なノルマを課せられ、退職を強要されたことにより、単身赴任先のアパート浴室にて、七厘に入れた豆炭で自殺を図り、一酸化炭素中毒で死亡した。	921	90	1～9
		9	被災者の乗る軽自動車は、顧客先に向かうためIC付近にて、IC出口ラ			

2014	2	～	10	ンプに向かう車列（渋滞中）の最後部に停車中、後続の3 tトラックに追突され、前方停車中の10 tトラックとの間に挟まれ大破した。	221	17	30～ 49
2014	2	～	12 13	通電していないトランスを撤去する作業中、トランスの上方にある充電回路（交流6600ボルト）に接触して感電した。	352	13	10～ 29
2014	3	～	23 24	長時間の時間外労働により、帰宅途中に意識不明となり死亡した。	921	90	1～9
2014	6	～	13 14	製材工場にて、フォークリフト前輪付近を点検していた際、製品を積込に 来ていた同僚がトラックに製品を乗せるため、点検中のフォークリフトの エンジンをかけ前進させたところ、被災者は前輪に轢かれ、死亡した。	222	6	10～ 29
2014	8	～	15 16	くさび式足場専用の天井クレーンを展示するため、くさび式足場4層目にて、天井クレーンを設置していた被災者は、約8m下の地面に墜落し、死亡した。尚、くさび式足場の作業床の内側に手すりはなく、安全帯は使用していなかった。	411	1	10～ 29
2014	10	～	10 11	パイプ椅子50脚を載せた台車をトラックのパワーゲートを用いて荷下ろしのため昇降中、パイプ椅子を載せた台車の一部がトラックの荷台に引っかかり、反動で台車と台車を支えていた被災者が共に転倒。被災者が台車に下半身をはさまれ、頭部が地面に激突した。	221	2	10～ 29
2014	11	～	13 14	社用車で国道を走行中、センターラインを越え、対向車線を走行していたゴミ収集車の側面に衝突。横転しながら後続車両に衝突した。	231	17	50～ 99
2013	8	～	12 13	被災者は、市道に停車していた自家用車を営業先の駐車場にバックして方向転換し、降車した際、自家用車が前進を始めたため、運転席側ドアとハンドルを持ち自家用車を止めようとしたが、市道から70cm下の空き地に自家用車とともに転落し、下敷きとなった。	231	17	10～ 29
				船の改修を行うため、船尾左舷に取り付けられた鉄製の台座（重量1.3			

2013	7	14 ～ 15	5 t) の撤去作業で、移動式クレーンにて吊り上げるため補巻フックを台座に掛け（海中への落下防止）溶断作業を行っていたが、溶断が終了したとたん、台座荷重がフックに加わりクレーンの定格荷重（約1 t）を越え、移動式クレーンは停泊していた船舶方向に転倒し、運転席が船舶に押しつぶされ被災者が運転席に挟まれ死亡した。	212	2	10～ 29
2013	4	13 ～ 14	駐車場で、駐車場の出口精算機の点検中に突然倒れ、救急搬送されたが死亡した。	921	90	10～ 29
2013	2	9 ～ 10	営業職として業務に従事していた被災者は、訪問先の顧客宅にて倒れ、救急車搬送されたが、死亡した。	921	90	1～9
2013	2	17 ～ 18	ドラグショベルのブーム（3.95 t）をドラグショベル（機体重量23 t）を使用してトラックに積み込む作業を行っていたところ、ブームがバランスを崩して横転し、荷台にいた被災者がトラックの荷台とブームの間に頭部を挟まれた。	611	6	10～ 29
2012	12	11 ～ 12	国道を社用ため乗用車で走行中、対向車線の大型トレーラーの積み荷の鉄板（縦約3m、横約1.5m、厚さ約2cm、重さ800kg）30枚を固定したワイヤロープが切れ、鉄板25枚が落下、うち16枚が被災者らの乗用車を直撃し、乗っていた被災者3名が死亡した。	221	17	100 ～ 299
2012	12	11 ～ 12	国道を社用ため乗用車で走行中、対向車線の大型トレーラーの積み荷の鉄板（縦約3m、横約1.5m、厚さ約2cm、重さ800kg）30枚を固定したワイヤロープが切れ、鉄板25枚が落下、うち16枚が被災者らの乗用車を直撃し、乗っていた被災者2名が死亡した。	221	17	100 ～ 299
2012	3	15 ～ 16	被災者は立体駐車場の機械部分等の保守点検作業を実施するため、高さ約16mの箇所に自動車用搬器の上に乗って移動し、当該自動車用搬器を作業床として、駆動部分等の点検を行っていたところ、開口部から墜落した。	414	1	10～ 29
2012	9	14 ～	建設現場でドラグショベルのバケットを交換するため、被災者は単独で自社の移動式クレーンで搬送し下ろそうとしていたところ、移動式クレーン	212	6	1～9

		15	が転倒して地面との間に挟まれ死亡した。			
2012	7	12 ～ 13	客先へ向かうため、高速道路を乗用車で走行中、後方の大型トラックに追突された。なお、大型トラックは、鷗外乗用車をはさむ形でキャリアカーにも追突し、3台が炎上した。	221	17	100 ～ 299
2012	10	9 ～ 10	ケヤキの枝打ち作業のため、梯子でケヤキに登り、チェーンソー使って作業していたところ、高さ約10mの箇所から墜落した。被災者は、ヘルメットを着用し、腰に安全帯を巻いていたが、安全帯のフックを掛けていなかった。	712	1	1～9
2012	10	8 ～ 9	被災者はレンタル事業を行っている事業場のハイエースにレンタル商品を積み込み、利用者宅に向かって走行中、トンネル内の反対車線側の待避所の壁に正面衝突し死亡した。	231	17	10～ 29
2011	6	9 ～ 10	鳥獣対策機器メーカーの営業マンである被災者が、糞害による鳩の駆除対策工事の見積り作業中、当該施工場所である運送会社の倉庫の屋根を歩行中、採光用樹脂製の板を踏抜き、約9.5メートル転落し死亡した。当該倉庫は鉄骨平屋で屋根、壁共にスレート製である。	415	1	1～9
2011	3	15 ～ 16	被災者は、マンションの一室において、天井ボード及び床板の張替作業中に転倒または墜落する等により負傷し、そのことが原因で死亡したものである。被災者は一人で作業を行っていたため災害発生状況を目撃した者はおらず、災害発生状況の詳細は現在のところ不明である。	371	1	10～ 29
2011	8	13 ～ 14	新築住宅工事現場に設置していた自社リース品であるくさび緊結式足場を解体して、最大積載量1tの平ボディー車に足場部材を積み込んで自社の資材置場に戻ってくる道中で、運転手が単独の交通事故を惹起し、側溝わきに立っている電柱に衝突して助手席に座っていた技能実習生が死亡した。事故現場は道路の両側とも畑の見通しがいい片側一車線の直線道路であった。	221	17	10～ 29
2011	11	～	14 車両積載トラックからドラグショベルを運転し降ろそうとしていたところ、ドラグショベルと共に横転し、当該ドラグショベルの下敷きとなっ	142	1	1～9

		15	た。			
2011	5	10 ～ 11	被災者は展望タワーの日常点検のため、同タワー内部に設置してある作業用エレベーター（積載荷重200キロ：現在確認中）に搭乗し、地上から約100メートル上にある塔頂機械室に向かったが、到着直前に頭部をエレベーターの縁とプラットホームの間にはさまれた。	214	7	50～ 99
2011	6	13 ～ 14	営業のため軽自動車を運転し、市内の事業場から別の市内の訪問先に向かう途中、国道を走行していたところ、センターラインを越えて対向車線にはみだし、対向の大型トレーラーと正面衝突して、内蔵破裂により死亡した（労働者性に疑義があったが、平成23年10月21日労災支給決定）。	231	17	1～9
2011	6	11 ～ 12	会社主催のバイクツーリングイベントにおいて、参加者の案内役として参加していた被災者は、国道を走行していたころ、誤って転倒し、道路脇の標示板に衝突した。	231	17	1～9
2011	1	9 ～ 10	給食運搬用の簡易リフト修繕作業中、搬器の上部で、修繕箇所の確認をした後、搬器上から2階フロアに降りようとしたところ、搬器が上昇し、胸部を簡易リフトの扉と搬器に挟まれた。意識不明であったが、病院搬送後死亡した。	214	7	10～ 29
2011	3	10 ～ 11	工場東側機材置き場にて、1人で橋形クレーン操作中に、つり上げていた機材が下にあった機材に引っかかったため、移動させようとクレーンを動かした。その際、操作を誤り、つり上げていた機材が下にあった機材へぶつかり、それが本人左脚へ落下し骨折に至る。平成23年4月9日、肺塞栓症により死亡。	612	4	1～9
2011	5	8 ～ 9	店舗の害虫防除を行っていた被災者が、同店舗の屋根（高さ約4m）から墜落したものの。	418	1	10～ 29
2010	11	17 ～	宅地造成現場ヘリースしたドラグショベルを引き取りに行き、運搬用トラックに積み込むためドラグショベルのバケットを地面に突いてアームで押しながら後進させて登っていたところ、横転し、キャビンに挟まれ、翌	142	2	1～9

		18	日に死亡したもの。			
2010	11	10 ～ 11	マンションの階段の5階と6階の踊り場において、高さ85cmの脚立を用い天板上に乗って蛍光灯を取り換える作業中、当該脚立から転落した。この際、高さ120cmある踊り場の腰壁を越え、約1.2m下の地面に墜落した。	371	1	10～ 29
2010	10	10 ～ 11	貸し出していた機体重量1.6tのドラグ・ショベルを返却の際、2tトラックから乗降台に降ろしたあと、乗降台のスロープを使って地上へドラグ・ショベルを移動中に乗降台からドラグ・ショベルごと横転したもの。	141	1	1～9
2010	9	11 ～ 12	11階建てマンション1階の植栽に倒れている被災者を住人が発見した。墜落箇所はその真上7階渡り廊下の屋根部分と思われる。被災者は、8階廊下の腰壁を乗り越え7階屋根に渡り、屋根上の堆積物（枯葉、埃）を掃除し、その終了後、墜落した。掃除作業を行っていた屋根部分には手すりは無く、保護帽、安全帯を着用していなかった。墜落高さは約19mであった。	371	1	100 ～ 299
2010	9	16 ～ 17	当該事業場の敷地内において、リース用のドラグショベル（移動式クレーン仕様のもの）を整理のため運転中に当該ドラグショベルの運転室と隣接駐機中の掘削用機械（リース用）の運転室との間に首を挟まれた。運転席から身を乗り出した時に、体の一部が旋回レバーに触れ、ドラグショベルが旋回したとみられる。	142	7	1～9
2010	7	11 ～ 12	倉庫会社の倉庫前の路上において、A社の労働者Aが、B社の代表者Bと共に、当該倉庫建屋にある雨どい（高さ6.55m）を見るために、倉庫会社の労働者Cが運転するフォークリフト（最大荷重1t）のフォークに載せたパレットに乗り、地上3mまで上がったところ、労働者AとBがパレットと一緒に墜落し、労働者Aが死亡したもの。	222	1	1～9
2010	7	10 ～ 11	軽ワゴン車で営業先へ向かうため県道を走行中、左カーブのトンネルを出たところ雨が激しく降っていたため、ハンドル操作を誤ってハンドルをとられ、中央分離帯に乗り上げ街灯に衝突し、横転して反対車線に飛び出し	231	17	1～9

			たもの。運転者は、病院に運ばれたが、17日後に死亡。			
2010	6	11 ～ 12	事業場敷地内に停めていた不整地運搬車（ハンドガイド式）を狭い場所で移動させるため、操作盤のある車体の後ろ側に被災者が立ち、当該車両を後進させたところ、後方に駐車していたダンプトラック（最大積載量4t）の荷台との間で体を挟まれた。	227	7	1～9
2010	4	10 ～ 11	高速道路を走行中、中央分離帯へ接触し、その反動で左側ガードロープへ接触、その後、走行車線走行中のトレーラーと衝突した。	231	17	30～ 49
2010	3	18 ～ 19	被災者は事業場敷地内の屋外ゴミ集積場にゴミ捨て後、社屋に戻るため屋外駐車場を歩行中、凍結路面により足を滑らせ転倒し頭部を強打した。頭部から出血し倒れていたところを発見された。その後入院加療中であったが、約3か月後に死亡した。	719	2	1～9
2009	3	15 ～ 16	出張先の業務を終え営業車を運転して帰社途中、片側一車線の道路を走行していたところ、中央線をオーバーして対向車（乗用車）の右側面に衝突し、さらに、その後方から来ていたダンプトラックと正面衝突した。	221	17	10～ 29
2009	12	11 ～ 12	被災者は、既存マンションに隣接するコンクリート擁壁の壁面に生えた苔を取り除く作業を行なおうとしていたところ、マンション躯体と擁壁との間に設けられているコンクリート屋根の開口部（3m×0.8m）から、3.51m下の駐車場床面に転落した。	414	1	50～ 99
2009	8	4 ～ 5	被災者は、商品納入のため会社から一人で保冷車（2t）を運転し、客先を経由して次の納品先に向かおうと、国道（現場は片側二車線の緩やかな左カーブ）を走行中、中央分離帯に接触し、さらに道路左脇の案内標識柱に衝突した。	221	17	10～ 29
2009	8	10 ～ 11	マンション住民より鳩対策の要望があったため、管理人である被災者が、非常階段の5階と6階間の踊り場において、脚立を使用して鳥が止り木代わりに使用しないよう梁部に目張りを行っていたところ、バランスを崩し踊り場の手すりを乗り越え約15m下の地表に墜落した。	371	1	50～ 99

2009	1	18 ～ 19	自動立体駐車場において、自動車運搬用の移動台車（搬器）の櫛状の棒（自動車の後輪が載る部分）と自動車を駐車させる駐車棚（櫛状の棒架台）との間にはさまれた。	229	7	10～ 29
2009	3	15 ～ 16	コンクリートプラント解体工事現場において、鋼鉄製のセメントサイロ（高さ約20m、直径約6m）を解体するため移動式クレーンでサイロ上部をつり、移動式クレーン側の支柱2本をガス溶接機で溶断し、ドラグ・ショベルの圧碎機（アタッチメント）で溶断した支柱を抜いたところ、サイロが倒壊を始め、移動式クレーンの運転者が倒壊したサイロの下敷きとなった。	212	5	1～9
2009	2	13 ～ 14	被災者は、乗用車を運転して道路を走行中、登坂車線の右カーブでスリップし、後輪が左に振れた体勢を立て直そうとステアリングを逆に切ったところ、今度は後輪が右に振れた状態となり、そのまま対向車線に進入し、対向してきたワンボックス車の正面と被災者車両の運転席側面が衝突した。	231	17	10～ 29
2009	10	15 ～ 16	駐車場整理員の被災者が駐車場に駐車する乗用車の後方で駐車枠内に誘導中、乗用車の運転者が運転操作を誤って急に後進したため、はねられ、さらに後方に駐車してあった別の乗用車との間にはさまれた。	231	6	1～9
2009	12	14 ～ 15	揚重作業の現場に向かうため、市道と現場を結ぶスロープ状の私道に乗り入れたところ、スロープの路肩が崩壊して移動式クレーンとともに被災者が転落した。	212	1	10～ 29
2009	3	8 ～ 9	被災者は帰宅後、自宅で前のめりに倒れているところを親族に発見された。被災者の発症前2か月間の時間外労働が90時間を超えていた。	921	90	1001 ～ 9999
2009	8	10 ～ 11	建物の屋内階段方向で、物音がしたので見に行くと、2階と3階の間の踊り場で被災者が仰向け状態に倒れていた。発見後、病院へ搬送されたが死亡した。被災者は、普段から当該建物の清掃作業に従事しており、被災者の傍らには掃除機があった。	413	1	1～9
		8				

2009	2	9	国道を走行中、被災者は停車していた大型トラックに追突して対向車線にはみ出し、さらに対向してきた乗用車と衝突した。	221	17	10～29
2008	9	15～16	金融機関で入金業務を終えて市道に出てきた被災者は、走行してきた軽四輪自動車にはねられ死亡した。	231	17	10～29
2008	3	6～7	住宅の新築工事現場に行くため移動式クレーンで国道を走行中、後方を走っていたトラックに追突されて、はずみでガードレールを突き破り、斜面を約20m転落して死亡した。	221	17	1～9
2008	8	11～12	被災者が用務のために原動機付自転車で外出中、交差点付近で信号待ちしていたところ、後方から大型貨物自動車に追突されて転倒し、大型貨物自動車の右前輪でひかれた。	221	17	1～9
2008	7	9～10	古民家の庭木（高さ2.3mの梅）に脚立を伸ばしたはしご（長さ4.2m）を立てかけて枝切りり作業を行っていたところ、はしごが転位したため隣家の敷地内に墜落（庭端が高さ3.3mの擁壁となっていた）し、コンクリート土間に打ち付けて死亡した。	371	1	1～9
2008	5	13～14	2階建工場の2階荷降ろし口（三方が柵で囲われ、荷降ろし口が観音開き状の扉となっている）から、天井クレーンを使用してレンタル機材を降ろしている際、当該荷降ろし口から1階床（高さ5.9m）につり荷と共に墜落した。	414	1	10～29
2008	3	15～16	打ち合わせをするため事業場から相手先へ向う途中、鉄道踏切の遮断機を越えて踏切内に進入して電車と衝突した。	232	17	1～9
2008	11	13～14	被災者は事業場内にある壁を支える高さ約6mの梁の塗装作業を行う前段階として、梁上にたまった水を抜くためにフォークリフトのバケットから梁上にまたがり、ガス溶断にて穴開けの作業を行っていた。その際、バランスを崩して高さ約6mの梁上からコンクリートの地面に墜落し死亡した。	415	1	1～9

2008	4	22 ～ 23	全社員の集会終了後の夕食途中で気分が悪くなり、自分の部屋に戻って休 んでいたがトイレに入ったまま意識を失っているのを同僚が発見し、病院 に搬送されたが死亡した。	921	90	1～9
2008	2	11 ～ 12	被災者は同僚1名と共に当該事業場で管理している4階建てアパートの雪庇 落としに従事していたところ、高さ10.5mの屋上からアスファルト路面の 駐車場に墜落した。駐車場はロードヒーティングによりアスファルトが露 出していた。被災者は安全带・保護帽未着用、安全带取り付け設備も未設 置であった。	415	1	10～ 29
2007	5	14 ～ 15	被災者は、ホテルの空調設備の整備作業（冷却用ポンプのモーターシャフ トとポンプ間のグランドパッキンの交換）を行っていたが、作業終了後、 当該ホテルの屋上より約27m下の隣接家屋のベランダ部分へ墜落した。	418	1	1～9
2007	2	18 ～ 19	3階建てビルの屋上に設置された水道メーターを確認するため、被災者が 3点支持式脚立を用いて3階テラスと屋上の間の昇降を行っていたとこ ろ、脚立が倒れ転落した。	371	1	10～ 29
2007	10	16 ～ 17	被災者は敷き鉄板2枚を移動させるため、敷き鉄板の近くに駐車していた 建設機械を一旦移動させ、フォークリフトで敷き鉄板を取り出した後、当 該建設機械を元の位置まで戻す作業を行っていた。被災者は、ほぼ元の位 置まで当該建設機械を移動させた後、頭部を運転席から出した状態で上部 旋回体を180度左旋回させたところ、真横に置いてある不整地運搬車と の間にはさまれた。	149	7	1～9
2007	5	18 ～ 19	倉庫1階から倉庫2階へ、エレベーター（搬器床面積約1.5平米、搬器 高さ約2.2m）を使用して荷揚げを行っていたところ、1階で待機して いた同僚が、搬器が降りてこないことを不審に思い、2階に上がったとこ ろ、搬器と昇降路の柵の間にはさまれた被災者を発見した。	214	7	1～9
2007	8	12 ～ 13	マンションの敷地内で雑草などを除去作業中、高さ4.4mの擁壁の端か ら地上に墜落した。	418	1	10～ 29
		8	トラックにて発電機を配送中、交差点手前左側に停止していた2tトラッ			

2007	7	9	クに追突し、その衝撃で被災者の運転していたトラックと追突されたトラックが反対車線に飛び出し、対向車と衝突した。	221	17	10～ 29
2007	10	18～ 19	社命により参加したゴルフコンペの帰路において、T字路交差点から走行車線に進入したところ、走行車線を直進してきた中型貨物トラックと衝突した。	231	17	10～ 29
2007	1	3～ 4	被災者は仕出し弁当の製造、配達を行う事業場の店長であるが、当日は午前3時30分ころ厨房のオープンの前で倒れているところを発見され、病院で死亡した。死亡前半年間の残業は長時間であった。	911	90	10～ 29
2007	7	21～ 22	取材先へ車で向かう途中、自動車道下り線で、左ガードレールに衝突し、そのはずみで右側の追い越し車線に飛び出し、そのまま横向きに停車した。そこへ後続の乗用車が追突した。	231	17	10～ 29
2007	10	11～ 12	トラックが交差点を右折しようとして横断歩道に進入した際、よそ見をしていて被災者をひき、被災者は約2～3m跳ね飛ばされた。	221	17	10～ 29
2006	10	16～ 17	倉庫内の高さ約3.6mの2階作業床で、高さ約5mのクリスマスツリーの移動を誘導していた被災者が誤って地上に墜落した。	416	1	1～9
2006	8	14～ 15	マンション代行管理の勤務についていた被災者が、機械式駐車場のチェーンが外れたピットの下に墜落しているところを発見された。	391	1	1000 ～ 9999
2006	7	16～ 17	資材センター内で足場板に防錆塗料の塗布作業中、崩れた資材の下敷きになった。	611	5	1～9
2006	6	14～ 15	牧場内に鉄骨造り平屋建て牛舎を新築する工事において、被災者ともう1名が屋根の端に釘で板を打ちつけていたところ、誤って4.4mの高さからコンクリート床に転落した。	418	1	10～ 29
		7				

2006	6	8	民家の建前工事現場に向かうため、移動式クレーンを運転し交差点を直進していたところ、左から来た乗用車と出会い頭に衝突、横転した。	212	17	10～ 29
2006	5	10～ 11	被災者が管理事務所中庭に植えられている高さ約7メートルの木（樹齢約40年）の剪定作業を高さ約3メートルの箇所で行っていた際に、当該樹木からアスファルト舗装面に墜落した。	712	1	10～ 29
2006	4	17～ 18	被災者は、倉庫内で、変圧器（縦180cm×横55cm×高さ87cm重さ1.2トン）の脚部4ヶ所に取り付けられていたキャスター（高さ20cm）をガス溶接機を用いて溶断していたところ、片側2ヶ所のキャスターを切断した際、変圧器が切断した側に倒れかかり、同変圧器と隣接した変圧器に挟まれた。	352	5	1～9
2006	4	13～ 14	倉庫内において、フォークと共に運転席が上昇・下降するフォークリフト（最大荷重450キログラム）を使用して、運転者及び被災者の2名が、倉庫内の棚から商品を取り出す作業を行っていたところ、商品を載せたフォークの先端に乗っていた被災者が約2.4メートル下の床に墜落した。	222	1	10～ 29
2006	4	14～ 15	被災者は、エンジンが焼き付き、自走できない中古建設機械を重機輸送用トラックに積込むため、トラックに搭載されているウインチで当該建設機械を前方から引張り、後方から別のドラグ・ショベルで押す方法で作業を行っていたところ、ウインチのフックが建設機械のアイプレートから外れ、当該ウインチのフックがトラックの側部にいた被災者を直撃した。	219	6	1～9
2006	4	16～ 17	被災者は、民家の屋根上にソーラーパネルを設置する作業を行っていたが、当該パネル設置完了後、施工状況の確認のため、屋根上を移動していたところ、高さ約7.35メートル（傾斜角30度）の屋根から地面に墜落した。	415	1	100～ 299
2006	1	10～ 11	宅配物を運送会社に運搬作業のため車の運転業務中、前方を走行していた右折待ちのトラックに追突し被災した。	231	17	1～9

2006	2	10 ～ 11	顧客からの注文書に基づき、自社がリースするポンプやロット管等建築資材のチェックを行うため、資材置き場を歩行していた被災者が、資材を返却に場内にバックで侵入してきた運送会社の4トントラックの左後輪に巻きこまれた。	239	7	1～9
2005	12	9 ～ 10	道路上にてダンプトラックの点検を行っていたところ、ダンプトラックの荷台を上げ下げさせる油圧ポンプに動力を伝達するシャフトに衣服を巻き込まれて被災した。	221	7	10～ 29
2005	4	13 ～ 14	11階建てマンション屋上（地上高さ30m）の端部において清掃作業中に墜落した。	418	1	1～9
2005	3	11 ～ 12	ポンプユニットの圧力を調整していたところ、蓄圧器が破裂し、その衝撃を受けて死亡した。	312	15	1～9
2005	10	11 ～ 12	地下鉄の売店に配達のため、出入口へ続く階段を下りようとした際、転倒した。	413	2	50～ 99
2005	4	19 ～ 20	乗用車を運転中、高速自動車道上で単独事故を起こした軽乗用車の後ろに停車し、110番通報した直後、トレーラートラックに追突された。	221	17	1～9
2005	8	14 ～ 15	フォークリフトの運転を行っていたところ、運転操作を誤りバック走行で商品棚の枠内に入り、その際、商品棚の枠とリーチフォークリフトとの間に挟まれた。	222	7	30～ 49
2005	3	10 ～ 11	宿直業務中に、事業場内で意識不明となった。	921	90	100 ～ 299
2005	5	13 ～	自社車庫より車両積載形トラッククレーンを出そうとエンジンを始動させたところ当該車両が動き出し、運転席のドアが車庫の柱に当たり、ドアと	212	7	1～9

		14	車体との間に挟まれた。			
2005	10	18 ～ 19	リースしていたドラグ・ショベルを、運搬してきたトレーラーに載せたまま点検するため、ゆっくりと走行していたトレーラートラックに乗り込んだ被災者が、トレーラートラックの荷台と後輪との隙間に転落し挟まれた。	221	7	1～9
2005	7	12 ～ 13	マンション販売現場にて、打ち合わせ終了後、荷物を整理しているとき、突然倒れ、意識不明となった。	921	90	50～ 99
2005	12	9 ～ 10	駐車場に歩いて向かっていたところ、凍結していたため転倒した。	418	2	10～ 29
2005	4	15 ～ 16	原動機付き自転車（バイク）で走行中、道路上で転倒した。	231	17	50～ 99
2005	2	11 ～ 12	事務所から作業箇所に向かう途中で転倒した。	417	2	100 ～ 299
2005	1	16 ～ 17	住宅増築現場の上棟式の準備で梁上に上って作業中、梁上から3.5m下のコンクリート土間に転落した。	415	1	1～9
2005	9	8 ～ 9	トラックの荷台に鉄くずを固定していたロープを解いていたところ、構内を走行していた他のトラックに激突された。	221	6	1～9
2005	1	0 ～ 1	昼食のために立ち寄った飲食店内で倒れた。	911	90	1～9
		11	仮設ハウスを清掃中の被災者が、付近を走行してきた橋型クレーンと仮設			

2005	3	～ 12	ハウスとの間に挟まれた。	211	7	1～9
2003	12	15 ～ 16	2tトラックで葬儀用具を会社に持ち帰るため国道を走行中、ハンドル操作を誤って車両が横転し車内で頭部を強打した。	221	17	100 ～ 299
2003	12	11 ～ 12	3.5t積み平荷台トラックに足場部材を積んで走行中、渋滞で停止中のトレーラーに追突した。	221	17	10～ 29
2003	11	8 ～ 9	駐車場事務所で、採暖のため石油ストーブに点火したときに火災となり、異常燃焼によって発生した煙および一酸化炭素等の有害ガスを吸入して意識を失い焼死した。	391	16	1～9
2003	10	4 ～ 5	建設工事現場にリースするガードマンボックスを運搬するため、2tトラックで国道を走行中、市道に右折しようとして曲がりきれずに国道上に停止していたトレーラーに追突した。	221	17	10～ 29
2003	10	14 ～ 15	ホテル屋上の定置式ゴンドラをつりワイヤの交換およびリミットスイッチ用ストライカーの補修溶接作業中に、階段室屋上のパラペット付近から約2m上方のゴンドラ点検通路上にいた作業員に軍手を渡そうとしたときに、パラペットから約6m下の床に墜落した。	418	1	10～ 29
2003	10	9 ～ 10	雨水幹線のしゅんせつのため、車両積載型トラッククレーン（最大定格荷重2.6t）で運んできたドラグ・ショベル（機体質量約2t）を橋の上から川につり降ろす作業中に、定格荷重を超えたためクレーンが転倒し、クレーン運転士が橋の欄干とクレーンとの間にはさまれた。	212	7	1～9
2003	10	15 ～ 16	営業活動のため原付自転車で走行中、後方からきたダンプカーに追突され車に巻き込まれた。	221	17	50～ 99
2003	10	11 ～	杭工事で使用した資材を搬出するため、傾斜のある道路上に貨物自動車（11t車）を止めて資材を積み込み、荷締めを確認していたときに	221	7	1～9

		12	貨物自動車の後方に動き出し、貨物自動車の後部に止めてあった移動式クレーンとの間にはさまれた。			
2003	8	0 ～ 1	葬祭業務の打合せが終って軽ワゴン車で走行中、雨にぬれた道路上でスリップして左側山路肩に乗り上げ横転した。	231	17	10～ 29
2003	7	15 ～ 16	レンタル物品の回収打合せのため顧客先の駐車場に4tトラックを止め降車したところ、車が斜面に沿って動き出したので、あわてて同乗の助手とともに車の前に回って止めようとしたが押さえ切れず、別の車との間にはさまれた。	221	6	1～9
2003	5	14 ～ 15	パチンコ景品買い取り所内で勤務中に殺害された。	999	99	1～9
2003	5	19 ～ 20	事業所内の洗車場所で、配回送の終わったレンタカーの洗車や車内清掃を終えて同僚と立ち話をしていたときに、事業所とレンタカーの貸し借りをめぐりトラブル関係にあった加害者がやって来て刃物で刺された。	911	90	10～ 29
2003	5	16 ～ 17	倉庫の中2階からイベントに使用する部材を降ろす作業中に、置いてあったトラロープに足を取られて中2階の端から約4m下に墜落した。	418	1	10～ 29
2003	5	13 ～ 14	高所作業車をトレーラーで搬送するため、トレーラーの後部に専用の道板を取り付け、高所作業車を運転して道板を登っていたところ、高所作業車のクローラが道板で滑って道板から外れて約40cm落下し、そのときに運転席から投げ出されて頭部より落下した。	146	1	10～ 29
2003	3	11 ～ 12	おがくずを回収するため、フォークリフトで3.5tトラックの荷台最上部まで投入した。おがくず上部を平にしてシートをかけるため、荷台後部扉の固定はしごを使っておがくず上（高さ2.72m）に上り作業をしていて地上に墜落した。	221	1	1～9
		14	自動車保管用駐車場から自動車を移動するため国道を走行中、左側路地か			30～

2003	1	15	～	ら進入してきたオートバイを避けようとしてハンドルを切り損ね橋脚に激突した。	231	17	49
2001	12	10	9	建設現場に机等の備品をリースするためトラックで走行中、大型トラックと正面衝突した。	221	17	1～9
2001	12	14	13	45tラフタークレーンを道路工事現場へ搬送するため走行中、緩い右カーブで地吹雪等により視界が悪く、路面がアイスバーン状態であったため運転操作を誤り、路肩下へ転落して運転席の上部が潰れ、運転席のアーム部分に挟まれた。	212	17	1～9
2001	9	1	0	クレーン用グラブバケット(質量約2.45t)の部品交換をしていたところ、グラブバケットが載せてあった台から落下し、その下で作業を行っていた者が下敷きになった。	379	4	1～9
2001	11	21	20	160tトラッククレーンのカウンターウエイトの取付け作業で、4段のカウンターウエイトのうち連結された1段目と2段目のウエイトを積み込み、3段目のウエイトを吊るため旋回したところ、連結ピン外しの作業を行っていた者が上部旋回体とカウンターウエイトとの間にはさまれた。	212	7	10～29
2001	8	15	14	資材加工場で、鋼管(質量約280kg)を吊り上げ荷重10.3tの片脚橋形クレーンで運搬するため、鋼管の片側にハッカーを掛け、もう一方にもハッカーを掛けようとしたときに鋼管が落下し激突した。	372	4	10～29
2001	4	11	10	乗用車で走行中、国道と町役場との境界にあるイチョウの大木と石柱に激突した。	231	17	100～299
2001	6	14	13	倉庫内でドラグショベルのアタッチメント交換作業において、ドラグショベルからアタッチメントの「アイアンフォーク」(約350kg)を取り外し、それを倉庫隅に仮置きするためクレーンで移動中に「アイアンフォーク」が落下し下敷になった。	372	4	1～9
			11	フォークリフトのタイヤ交換作業で、新たに取り付けるタイヤに空気を充			30～

2001	6	～	12	填していたときにチューブが破裂し、タイヤに装着されていたリングが腹部を直撃した。	169	15	49
2001	5	～	8	7 敷地内に掘った約3.3m四方(やや扇形)、深さ約1.5mの焼却用の穴で、 事業場の隣家から伐採した竹等の廃材を焼却する作業中に焼却用の穴に落ち焼死した。	715	11	10～ 29
2001	4	～	11	10 物件を確認するため宿泊先からレンタカーで走行中、対向車線にはみ出し 対向のタンクローリーと正面衝突した。	231	17	10～ 29
2001	3	～	6	5 朝刊を配達のため自転車で国道を走行中、直進してきた大型トラックと衝突した。	221	17	1～9
2001	2	～	24	23 トラックを輸送するため走行中、停車中の車輻を避けるため対向車線に移動したときに対向のワゴン車と正面衝突し、ワゴン車の運転手が死亡した。	221	17	10～ 29
2000	5	～	1	0 資材収納籠の周囲をコの字形に囲んだ簡易焼却場の一部を改造しようとして、鉄板(3m×1.5m、質量900kg)と収納籠との間に胸部を挟まれた。	521	5	1～9
2000	12	～	9	8 河川災害復旧工事現場に通じる農道上において不整地運搬車の修理中に、荷台が降下したため荷台と車体との間に挟まれた。	227	7	1～9
2000	3	～	12	11 マンション所有者を訪問後乗用車で国道を走行中、坂を下りてきた乗用車がセンターラインを越えてきて正面衝突した。	231	17	10～ 29
2000	6	～	23	22 高速道路を自動車で行く途中、運転操作を誤って中央分離帯に衝突し、後続のトラックにも追突された。	231	17	1～9
			10	約700kgと約800kgの鉄板2枚づつを定格荷重2.9tの車輛積載形トラック			

2000	2	～ 11	クレーンで運び、約800kgの鉄板を降ろすときに、降ろす予定位置にクレーンを近づけようとして近くに居た者を左後輪でひいた。	221	7	1～9
2000	7	21 ～ 22	マンションの外階段の踊場で、天井に設置してあった蛍光灯の交換を脚立に乗って行っていて地上に転落した。	371	1	1～9
2000	2	11 ～ 12	虎(3歳、体長163cm)をオリから事務所内に出したときに、頸部を噛まれた。	719	90	1～9
2000	8	22 ～ 23	客先での営業を終え乗用車で走行中、片側一車線の直線道路でハンドル操作を誤って土手に乗り上げ横転した。	231	17	30～ 49
2000	8	15 ～ 16	オートバイで焼肉店に取材に行くため青信号で交差点を直進していたところに、対向車線から右折してきた乗用車に衝突された。	231	17	1～9
1999	12	9 ～ 10	生花を配達したのち軽乗用車で走行中、交差点(十字路・信号機無)で町道から県道に入ろうとしたときに、県道を走行してきた普通トラックと出会い頭に衝突した。	231	17	1～9
1999	12	10 ～ 11	発電機を建設工事現場に運搬するためにトラック(4t)で走行中、対向車(4t積みトラック)が走行車線に進入してきたために避けきれず、正面衝突した。	221	17	1～9
1999	10	10 ～ 11	挨拶まわりのために社用車で走行中、見通しの良い直線道路でセンターラインオーバーしてきた居眠り運転の乗用車に衝突された。	231	17	1～9
1999	9	8 ～ 9	展示用プレハブハウスの点検中、台風の突風によりハウスが横転しその下敷きになった。	418	5	1～9
		17	軽トラックで営業先から大雨の中事業場に帰る途中、町道交差点で左側か			

1999	9	～	ら直進してきた乗用車と出会い頭に衝突し、両車とも町道脇の水路(幅約	231	17	1～9
	18		3m、深さ約1m)に転落した。			
1999	8	～	車で出勤してきて駐車場で、運転席ドアを開けて身を乗り出し、駐車ス	231	7	1～9
	8		ペースにバックで車を入れていたときに、隣に止めてあったワゴン車と自			
			分の車のドアに頭を挟まれた。			
1999	6	～	トラックの荷台に高所作業車を積載して、別の営業所まで運んだ後、リー	372	6	1～9
	14		スヤードに設置してある橋型クレーンを使用して高所作業車を荷台から降			
	15		ろそうとしたところ、フックからワイヤロープが外れたために倒れてきた			
			高所作業車の下敷きになった。			
1999	5	～	資材置場のテントが強風により飛ばされたのでフォークリフトのパレット	222	7	1～9
	1		を作業床にしてテントの梁を修理していたときに、誤ってフォークリフト			
			の車体とマストの間にはさまれた。			
1999	5	～	移動式クレーンで荷役作業を行うため、港に到着してから約5分後にク	212	1	10～
	5		レーン後方に倒れているところを他の作業員に発見された。			29
	6					
1999	1	～	書類を届けて、帰社途中の地下鉄駅で、電車が来たので乗ろうとして階段	413	1	10～
	15		から足を踏み外して頭から前に倒れ落ち、頭部を強打した。			29
	16					

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.html(職場のあんぜんサイト)

https://www.jisha.or.jp/international/topics/202311_01.htmlに戻る。